HajimeOniki

1/4/2025

17:48

私は 1933 年生まれの 91 歳で、現在大阪府に住んでいます。小学生の時に戦争を経験し、朝鮮人（当時の用語のまま使います）の方の日本での（強制）労働を巡って、私の小学校で小さな「事件」が起きました。このことについて強い記憶が残っていますので、以下これを述べます。

戦争が始まった時、私は両親とともに東京に住んでいました。戦争が激化しはじめた 1943 年に、縁故疎開で現在の熊本市北部町（当時の熊本県飽託郡川上村）に移転し、そこの川上小学校に転校しました。それから 1 年ほど経って 6 年生に進級した年の春のことです。陸軍の防空壕掘りのために朝鮮から労働者がやってくるという噂が広がり、大人たちは「むやみに近寄るな」と言って、我々小学生は「怖い」思いをしていました。

その後実際におよそ 200～300 人の朝鮮労働者が家族とともに来村し、私達の小学校の校舎の一部に住むようになりました。小学校には全部で 4 棟の細長い校舎が平行に並んでいましたが、その中で職員室から最も遠い第 4 校舎が彼らの住居になりました。私たち生徒は残りの第 1～第 3 校舎を使い、第 4 校舎の方角には行かないように言われていました。第 4 校舎はほとんど教室だけで、生徒用のトイレ・手洗いと水道はありましたが炊事場はなく、彼らの家族は、校舎近くの空地でレンガや石で竈（かまど）を築いて炊事をしていました。（今から考えると風呂場もなく、どのように生活

していたのでしょう。）

　その頃から本土への空襲が激しくなり、学校の校舎も空襲を受けた時の延焼防止のために、4 個の校舎を接続していた木造の「渡り廊下」を取り除くことになりました。そして作業には、最上級生である我々6 年生が当たったのです。

　まず渡り廊下の屋根を外し、天井を落とし、壁を取り除いて、その後廊下全体を支えていた梁や柱を曳き倒す作業をしました。当時小学生でも 6 年生になると畑仕事などの労働に皆慣れており、渡り廊下外しの作業も生徒だけで進みました。その柱を倒していた時のことです。

　生徒たちだけでは想像もできなかったのですが、その柱を曳き倒す時に、倒れた梁と柱が思いの他に大きく跳ねました。生徒の方は無事でしたが、そこにあった竈とその上の炊飯釜を直撃しました。炊飯窯の横に付いていた金属の「縁（ふち）」が、ちょうど土星のリングのように釜本体から離れて一部曲がり、それが日光に当たってキラキラと輝いていました。釜の横には母親らしい人がいて、私達生徒の方をじっと見つめていました。何も叱るとか苦情を言うこともなく、ただ黙ってこちらを向き、見つめていたことを記憶しています。

　私は子供心にもこれは大変なことになったと思い、また仕事の班長をしていたので、すぐに小使室近くにいた担任の先生のところに行って、作業中の事故について報

告しました。その時の先生の対応が、今から考えても大変異様で、記憶に残っています。

先生は私の話を聞いた後に、すぐ駆けつけるなどのことは全くなく、じっと私を睨みつけ、そのまま立ち続けていました。私が何か悪いことをして叱られているかのようでした。その時は私も全く訳が分からず、しばらくしてそのまま作業場に戻ったか、教室に行ったと思いますが、記憶がありません。作業の現場がどうなったかについても覚えていません。私の記憶に明瞭に残っているのは、柱が倒れた時の炊事釜の跳ね返りと、釜の縁が外れて光っていたことと、担任の先生の怖い顔です。

何十年も経った後にも、この記憶を思い出し、いろいろ考えることがありました。特に担任の先生の凍りついたように私を睨んだ怖い顔は気になりました、

現在の常識から言えば、作業に来ている異国の家族の大事な生活用具である炊飯釜を教え子が壊したのですから、まずは当人すなわち私に案内させて現場に駆けつけ、当人と共に謝罪することが常識です。またその後職員会議などで善後策を検討することになります。先生は普段から生徒に対して、事故などを起こして他人に迷惑をかけた時は、まずその場できちんと謝るなど、社会的な礼儀を教えていたわけです。しかしこの場合は、被害者が朝鮮人という理由で、先生は特段の行動を取らず、そのまま生徒を見ているしかなかったわけです。おそらく先生の心の中では、謝罪しなければ

ならないという礼儀作法を普段から生徒に教えているという事実と、（当時は）朝鮮人を差別していたのでその相手に頭を下げるわけにはゆかない、という 2 つの考えが戦っており、その解決がつかないので顔が硬直し、それが私には睨みつけられているように感じられたのだ、と考えています。

その後どうなったか、私は全く知りません。ただ他者にひどい迷惑をかけたまま放置されたということが、私の記憶に残りました。おそらくうやむやのままで終わってしまったのだと思います。

しかし戦後になって日本人による朝鮮人差別の話を何度か聞いているうちに、私が小学生の時に際会したこの事件も、やはり差別意識の表れであったのだ、と考えるようになりました。とりわけ差別に最も遠いはずの地方の小学校教師にまで差別意識が広がっていたことから、これは日本人全体に当時共通していたことと考えられます。このこともあって私は戦前・戦中の日本人は、韓国・中国などアジア諸国に対して、「間違った野心と行動の結果、これらの国の人に大きな迷惑をかけたことは事実である。」た思うようになりました。

私の経験は以上です。これがお役に立てばよろしいかと考えています。

鬼木　甫　（1933 年 6 月 13 日生）

大阪府吹田市古江台３丁目１０－３１―１０１